



優秀賞

朝焼け

M. T

キャンパス

油絵具

作品について

朝焼けに輝く風景を見ると、これまで無くしたものを思い感傷的になることもあります。同時に今日一日の大切さを思うこともあります。じっくり向き合いました。

講評

道路の脇に建つ朝日を浴びた倉庫か、蔵なのか、力強い筆致で描かれている。作者にはそう見えているのだろう、建物がまるで人間の顔のようにも見え、こちらに迫って来そうな迫力を感じさせる。「建物も生きている」とでも言っているようである。作者は見ている情景の感動を最小限に絞り込むことで、自分が表現するものは何かを適確にとらえている。そして描法も構図や色彩など単純化することで、自分の気持ちをストレートに描いている作品となっている。すがすがしい朝日を浴びた日常の風景画は、一日の始まりに元気をあたえてくれているようである。(渡部 利彦)